

1 PLAN(目的・概要)

政策名	港湾の安全確保と大規模災害にも対応できる地域防災を目指した港づくり		30年度事業・施策評価結果		責任者	港営部 港営課長
施策名	港の安全性・信頼性・危機管理の向上		成果	コスト		
事務事業名	ヒアリ等対策の推進				連絡先	052-654-7873
目的	対象(誰・何を)	名古屋港内でのヒアリ、アカカミアリの防除			事業期間	平成29年度～
	意図(どうい う状態にしたいか)	ヒアリ、アカカミアリの生息モニタリング調査を定期的に行い、発見された場合に駆除を行うこと で港内での定着防止を図ります。				
概要	特定外来生物ヒアリやアカカミアリの水際(名古屋港内)での防除を行います。				根拠法令等	特定外来生物による生態系に係る被害の防止に関する法律
令和元年度の実施予定	関係行政機関(環境省、国土交通省、愛知県、名古屋市等)、港湾関係者と連携した調査、防除に努め、コンテナターミナルや発見場所付近の臨港緑地、臨港道路における調査等を定期的実施します。				実施義務	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
					関連シート	

2 DO(実施)

令和元年度に実施した内容・結果	コンテナターミナル(飛島ふ頭東側CT・飛島ふ頭南側CT・鍋田ふ頭CT)年6回(2か月に1回)及びコンテナターミナル以外(臨港道路・臨港緑地)年4回(3か月に1回)の生息モニタリング調査を実施しました。調査の結果、ヒアリ、アカカミアリは発見されていません。					
コスト	単位	29年度	30年度	元年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	7,943	7,503	4,319	6,588	元年度が事務事業評価の初年度となります。
人件費	千円	-	-	9,633	9,633	
合計	千円	7,943	7,503	13,952	16,221	

3 CHECK(検証)

成果目標名	29年度	30年度	元年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因	
ヒアリ等の定着件数(件) (単年度管理型)	目標			0		ヒアリ、アカカミアリの定着防止が図られていることを示す指標として、定着が確認された件数を0件とします。		
	実績	0	0	0				
	事業進捗状況(元年度)		目標値を上回る 目標値をやや下回る		目標値どおり 目標値を下回る			
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	目標					ヒアリ、アカカミアリの定着は確認されておらず、目標を達成しました。		
	実績							
	事業進捗状況(元年度)		目標値を上回る 目標値をやや下回る		目標値どおり 目標値を下回る			
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明						
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○	ヒアリ、アカカミアリは毒をもち刺された場合、生命にかかわる恐れもあることから、港湾労働者及び来港者の被害防止のため、また、ヒアリ、アカカミアリの侵入、定着防止を水際で図る必要があります。					
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○						
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか?	○	ヒアリ、アカカミアリは発見されておらず、また、定着も確認されていないことから施策実現に貢献しています。					
	期待どおりの成果が得られているか?	○						
効率性	最小のコストとなっているか?	○	調査の実施にあたり環境省や事業者と調整を行っており、コンテナターミナル運営に支障がない範囲で適切な調査を実施しています。					

4 ACTION(取組)

施策評価結果	2年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	維持	引き続き、名古屋港内でのヒアリ・アカカミアリの定着防止を実施していく必要があるため。
	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
課題			2年度以降の取組
港湾労働者や来港者の被害防止、県民・市民が安心して来港できるよう、今後も引き続きヒアリ、アカカミアリの侵入、定着防止の取り組みを行っていく必要があります。			コンテナターミナル(飛島ふ頭東側CT・飛島ふ頭南側CT・鍋田ふ頭CT)年6回(2か月に1回)及びコンテナターミナル以外(臨港道路・臨港緑地)年4回(3か月に1回)の生息モニタリング調査を実施します。